令和 8 年（2026 年）3 月

令和 6 年度　専門学校生生活調査結果

独立行政法人
日本学生支援機構
JASSO Japan Student Services Organization

まえがき

日本学生支援機構（JASSO）では、全国の専門学校生（専修学校（専門課程））の学生生活状況を把握することにより、専門学校生にかかる学生生活支援事業の充実を図るための基礎資料を得ることを目的として、「専門学校生生活調査」を平成30年度に試行実施し、令和2年度から隔年で本格実施しています。

このたび、令和6年度の調査結果を取りまとめましたので、前回調査（令和4年度）との比較を行いながら、調査結果の概要を紹介します。

令和6年度調査は、前回と同様に、専門学校生を調査対象とし、全国555,342人の中から、設置者（公私）ごとに抽出率を定めてサンプル数を算出し、これを各学校に割り当てて調査を依頼しました。調査対象となった17,910人のうち、有効回答は7,465人、回収率は41.7%となりました。本文に紹介する資料に掲げる数値は、この標本調査の結果を基礎として、全国の調査対象学生総数についての数値を推定した結果となっています。

なお、本調査は、令和4年度からオンラインによる調査に変更しました。調査の実施方法等については、今後も、必要な見直しを行ってまいりますので、引き続き、なお一層のご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

専門学校生の生活に伴う問題は広範かつ複雑であり、この調査で取り上げた事に尽きるものではありませんが、この調査結果が専門学校生の生活に関心を寄せられる方々の参考になれば幸いです。

末筆ながら、本調査に回答いただいた学生の皆様、本調査の実施に際して多大なご協力をいただいた全国の専門学校関係者の皆様をはじめ、ご助言ご協力をいただきました関係者の方々に深く感謝申し上げます。

令和8年3月

独立行政法人　日本学生支援機構

目　　次

まえがき
Ⅰ．調査実施方法等について …… 1
Ⅱ．調査結果の概要 …… 2
１．学生生活費（学費と生活費の合計） …… 3
２．設置者別の学生生活費 …… 4
３．居住形態別の学生生活費 …… 4
４．学生の収入状況 …… 6
５．アルバイト従事状況 …… 7
６．奨学金の受給状況 …… 7
７．週間平均生活時間 …… 8
Ⅲ．集計表
１表　居住形態別・収入平均額及び学生生活費の内訳 …… 11
２表　居住形態別・地域別学生生活費の内訳 …… 12
３表　家庭の年間収入別学生数の割合 …… 13
４表　家庭からの給付程度別・アルバイト従事者の全学生に対する割合 …… 14
５表　アルバイト従事者の従事時期別・職種別学生数の割合 …… 15
６表　設置者別・家庭の年間収入別奨学金の希望及び受給の状況 …… 16
７表　設置者別・奨学金の種類別学生数の割合 …… 17
８表　設置者別・週間平均生活時間 …… 18
Ⅳ．参考資料
令和６年度専門学校生生活調査　調査票 …… 21
令和６年度専門学校生生活調査　【学生用調査案内】専門学校サンプル …… 29
令和６年度学生生活調査・高等専門学校生生活調査・専門学校生生活調査 実施の手引 …… 37

Ⅰ. 調査実施方法等について

1. 調査の目的　この調査は、全国の専修学校（専門課程）の学生（以下、専門学校生）を対象として、専門学校生の生活状況を把握することにより、専門学校生にかかる生活支援事業の充実のための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の対象　専門学校生
（社会人を含む。通信課程、休学者及び外国人留学生は除く。）

3. 調査の時期　令和 6 年（2024年） 11 月（隔年調査）

4. 調 査 数　全国の専門学校生555,342人（文部科学省の令和5年度「学校基本調査」調査票情報を利用）から、下記の抽出率によって算出した、17,910人を対象に調査を実施した。

区分＼設置者別	国　　立	公　　立	私　　立
専門学校	―	１８／８３	１／４０

※上記の数値は、在籍学生数に対する調査数の割合を示したものである（調査数/在籍学生数）。

5. 調 査 方 法　日本学生支援機構が、学校別の調査数とともに所定の調査票での調査実施を各学校に依頼し、各学校が、依頼された調査数で無作為抽出した学生に調査案内を配付、学生が、オンライン調査システムから回答する方法により、調査を行った。

〔補足事項〕

・層化多段抽出を行っているため、各学校における在籍学生数と調査数は完全には比例せず、在籍学生数の少ない一部の学校は、一定の確率で調査対象から外れている。また、在籍学生数 100 人未満の学校も、調査対象から外れている。

・国立については、いずれの学校においても在籍学生数が 100 人未満であり（国立全体でも全国の生徒数のうち約 0.0004%）、サンプルサイズ確保の観点などより調査対象から外れている。このため、本調査結果においては、公立及び私立の結果を示している。

・日本学生支援機構奨学金貸与対象校から層化多段抽出を行い、各学校へ調査を依頼した。

Ⅱ. 調査結果の概要

令和６年度専門学校生生活調査における調査結果として、学生生活費、学生の収入状況、アルバイト従事状況、奨学金の受給状況、週間平均生活時間の項目について取りまとめた。

＜令和６年度調査回収率＞

回収率　：41.7%（有効回答数 7,465 人／調査数 17,910 人）

＜令和６年度調査結果の一例＞

学生生活費

令和４年度　　令和６年度

1,691,100 円　→　1,806,700 円（115,600 円増（6.8%増））

収　入　額

令和４年度　　令和６年度

1,810,300 円　→　1,892,800 円（82,500 円増（4.6%増））

〔調査結果における留意事項〕

１．本調査における学生生活費は学費と生活費を合わせた支出額である。
　学　費：授業料、その他の学校納付金、修学費、課外活動費、通学費の合計
　生活費：食費、住居・光熱費、保健衛生費、娯楽・し好費、その他の日常費(通信費を含む)の合計

２．「家庭の年間平均収入額」については、令和６年度調査から回答方法の変更により算出は困難となったため、本調査結果から表示しないこととした。

３．本調査結果の集計表６表で示す奨学金受給者の割合には、日本学生支援機構の奨学金（給付・貸与）とそれ以外の奨学金（給付・貸与）の両方を含む。

４．本調査結果の集計各表は端数処理(四捨五入)後の数値を使用しており、内訳の合計値と合計欄の値が一致しないことがある。

５．質問の一部に回答がないデータは、一部の集計表では集計対象としていない。

６．各集計表の脚注に、有効回答数（n）を参考値として表示している。なお、設問によって有効回答数が異なることから、各集計表における n は必ずしも一致しない。

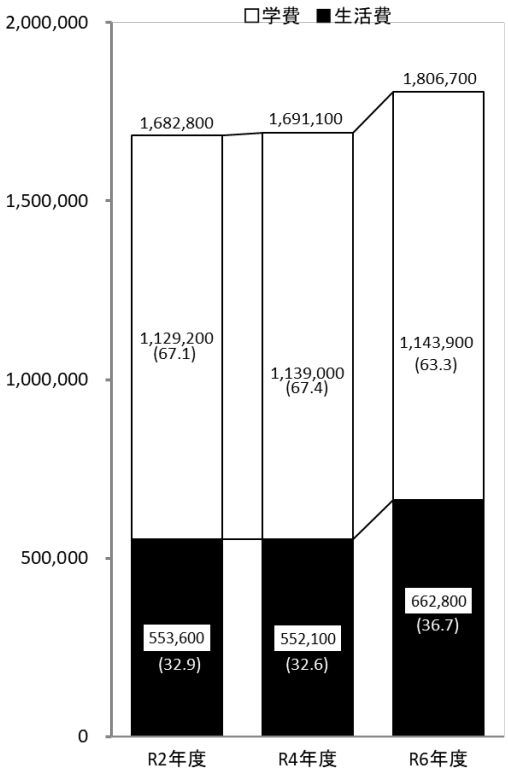
７．集計各表の数値は、この標本調査の有効回答を基礎として、調査対象学生総数についての推計値を算出した結果である。

８．表中の記号は次のように使う。
　「－」：計数が無い場合
　「0.0」：計数が単位未満の場合
　「･･･」：計数の出現が有り得ない場合または調査対象とならなかった場合

1. 学生生活費(学費と生活費の合計)【1表】

学生生活費の内訳を見ると、令和 4 年度調査（以下「前回調査」という。）と比較して、学費は 4,900 円（0.4%）の増、生活費は 110,700 円（20.1%）の増と、共に増加している。生活費の増加の主な要因は「娯楽・し好費」と「食費」の増加であり、前回調査と比較して娯楽・し好費は 52,800 円（49.7%）増加、食費は 43,100 円（37.1%）増加している。学生生活費全体に占める学費と生活費の割合は、前回調査では学費が 67.4%、生活費が 32.6%であったものが、今回調査では学費が 63.3%、生活費が 36.7%となっており、学費の占める割合が高くなっている。

［単位：円］ ※（ ）内の単位:%



学生生活費の内訳及び増減額

区 分	令和2年度	令和4年度	令和6年度	令和2年度→令和4年度		令和4年度→令和6年度	
	円	円	円	円	%	円	%
授業料	764,300	771,600	720,100	7,300	(1.0)	▲ 51,500	(▲ 6.7)
その他の学校納付金	185,900	183,100	187,100	▲ 2,800	(▲ 1.5)	4,000	(2.2)
修学費	96,000	91,500	123,100	▲ 4,500	(▲ 4.7)	31,600	(34.5)
課外活動費	4,100	5,100	14,400	1,000	(24.4)	9,300	(182.4)
通学費	78,900	87,700	99,200	8,800	(11.2)	11,500	(13.1)
小計(学費)	1,129,200	1,139,000	1,143,900	9,800	(0.9)	4,900	(0.4)
食費	124,600	116,100	159,200	▲ 8,500	(▲ 6.8)	43,100	(37.1)
住居・光熱費	120,300	116,300	126,900	▲ 4,000	(▲ 3.3)	10,600	(9.1)
保健衛生費	42,600	53,200	56,200	10,600	(24.9)	3,000	(5.6)
娯楽・し好費	106,800	106,300	159,100	▲ 500	(▲ 0.5)	52,800	(49.7)
その他の日常費	159,300	160,200	161,400	900	(0.6)	1,200	(0.7)
小計(生活費)	553,600	552,100	662,800	▲ 1,500	(▲ 0.3)	110,700	(20.1)
計	1,682,800	1,691,100	1,806,700	8,300	(0.5)	115,600	(6.8)

※( )は前回調査を基準とした増減率である。

2. 設置者別の学生生活費【1表】

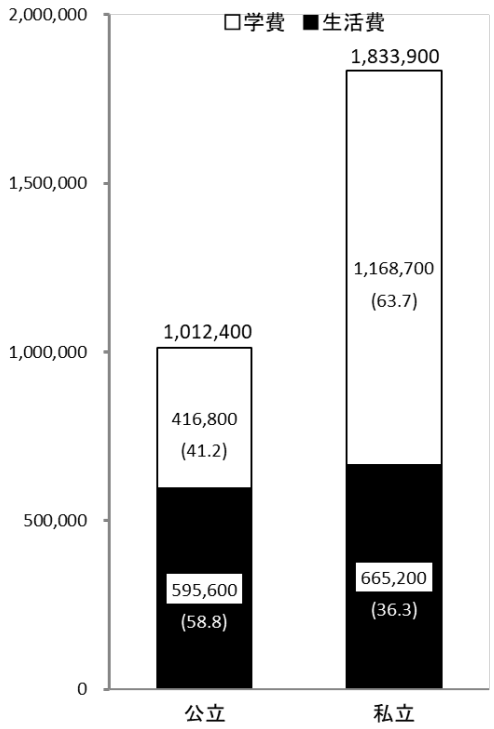
学生生活費を設置者別に比較すると、公立は私立より 82 万円少なくなっており、内訳を見ると学費の差が 75 万円、生活費の差が 7 万円となっている。学費の差の内訳は「授業料」が 54 万円、「その他の学校納付金」が 13 万円であり、これらが公立と私立の差の大部分を占めている。

学生生活費の設置者別内訳

[単位:円]

区 分	公 立	私 立
授業料	194,200	738,000
その他の学校納付金	61,500	191,400
修学費	75,700	124,700
課外活動費	9,600	14,600
通学費	75,800	100,000
小計(学費)	416,800	1,168,700
食費	152,200	159,500
住居・光熱費	87,200	128,300
保健衛生費	49,600	56,500
娯楽・し好費	158,400	159,100
その他の日常費	148,200	161,800
小計(生活費)	595,600	665,200
計	1,012,400	1,833,900

［単位：円］※（ ）内の単位:％



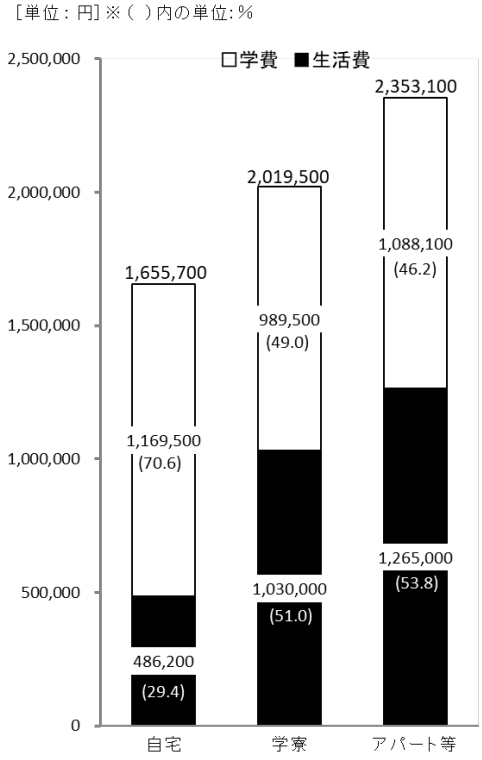
3. 居住形態別の学生生活費【1表】

学生生活費を居住形態別に比較すると、下宿・アパート・その他（以下「アパート等」という。）が最も高く、次いで学生寮（寄宿舎）（以下「学寮」という。）、自宅の順となっている。

学費・生活費別に比較すると、学費は自宅が 117 万円で最も高く、学寮が 99 万円で最も低くなっている。この差は、主に「授業料」の 10 万円の差及び「通学費」の 9 万円の差により生じている。生活費はアパート等が 127 万円、学寮が 103 万円、自宅が 49 万円であり、自宅と自宅以外との差が大きく開いている。この差の大部分は、「住居・光熱費」と「食費」によるものである。

居住形態別の学生生活費を更に設置者別で比較すると、公立の自宅を基準とした場合、私立の学生生活費は学寮、アパート等が公立の 2 倍を超え、自宅でも 1.92 倍と 2 倍に近い数値となっている。

［単位：円］※（ ）内の単位:％



学生生活費の居住形態別内訳

[単位：円]

区分	自宅	学寮	アパート等
授業料	727,800	621,600	720,100
その他の学校納付金	188,200	201,800	177,800
修学費	120,500	124,000	133,000
課外活動費	13,900	14,700	16,300
通学費	119,100	27,400	40,900
小計（学費）	1,169,500	989,500	1,088,100
食費	118,200	264,800	292,500
住居・光熱費	・・・	400,900	556,000
保健衛生費	56,100	49,000	59,200
娯楽・し好費	160,600	149,200	156,500
その他の日常費	151,300	166,100	200,800
小計（生活費）	486,200	1,030,000	1,265,000
計	1,655,700	2,019,500	2,353,100

居住形態別・設置者別の学生生活費

[単位：円]

区　分	自　宅	学　寮	アパート等
公　立	877,200　(1.00)	1,178,800　(1.34)	1,510,500　(1.72)
私　立	1,681,100　(1.92)	2,078,200　(2.37)	2,377,100　(2.71)
平　均	1,655,700	2,019,500	2,353,100

※（　）は、公立の自宅を基準（1.00）とした場合の比率である。

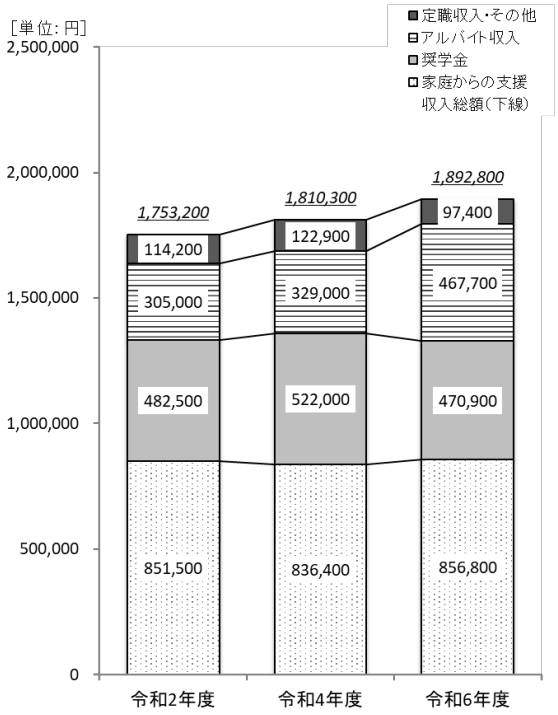
（参考）居住形態別学生数の割合

[単位：%]

区　分	自　宅	学　寮	アパート等	計
公　立	72.5	11.8	15.8	100.0
私　立	75.6	5.7	18.7	100.0

4. 学生の収入状況【1表】

学生の収入の内訳を収入総額に占める割合で見ると、「家庭からの支援」が 856,800 円で収入全体の 45.3%を占めており、次いで「奨学金」が 470,900 円で 24.9%、「アルバイト収入」が 467,700 円で 24.7%となっている。学生の収入の内訳を前回調査と比較すると、「アルバイト収入」が 138,700 円（42.2%）の増となっており、増減額・増減率ともに最も大きく増加している。また、「定職収入・その他」が 25,500 円（20.7%）の減、「奨学金」が 51,100 円（9.8%）の減、収入全体の概ね 5 割を占める「家庭からの支援」は 20,400 円（2.4%）の増となっている。



学生の収入の構成比

［単位：円］

区 分	家庭からの支援	奨学金	アルバイト収入	定職収入・その他	合計
令和2年度	(48.6)	(27.5)	(17.4)	(6.5)	(100.0)
	851,500	482,500	305,000	114,200	1,753,200
令和4年度	(46.2)	(28.8)	(18.2)	(6.8)	(100.0)
	836,400	522,000	329,000	122,900	1,810,300
令和6年度	(45.3)	(24.9)	(24.7)	(5.1)	(100.0)
	856,800	470,900	467,700	97,400	1,892,800

※( )は合計に占める割合（単位：%）である。

学生の収入の増減（令和 4 年度→令和 6 年度）

［単位：円、%］

区 分	家庭からの支援	奨学金	アルバイト収入	定職収入・その他	合計
増減額	20,400	▲ 51,100	138,700	▲ 25,500	82,500
増減率	2.4	▲ 9.8	42.2	▲ 20.7	4.6

5. アルバイト従事状況【4表】

アルバイト従事者(調査時前1年間においてアルバイトに従事した経験を有する者)の割合は79.4%となっており、前回調査と比較すると、4.8ポイント増加している。内訳を見ると、「家庭からの支援のみで十分修学可能」で41.0%（前回調査から2.0ポイント増)、「家庭からの支援のみでは修学がやや困難・非常に困難及び支援無し」で38.4%（同2.8ポイント増）となっている。

[単位:%]

区　分	令和2年度	令和4年度	令和6年度
アルバイト従事者	71.1	74.6 (3.5)	79.4 (4.8)
家庭からの支援のみで十分修学可能	33.1	39.0 (5.9)	41.0 (2.0)
家庭からの支援のみでは修学がやや困難・非常に困難及び支援無し	38.0	35.6 (▲ 2.4)	38.4 (2.8)
アルバイト非従事者	28.9	25.4 (▲ 3.5)	20.6 (▲ 4.8)

※( )は直前の調査からの増減である。

6. 奨学金の受給状況【6表、7表】

何らかの奨学金を受給している者の割合は55.2%となっており、前回調査と比較すると割合が減少している。

なお、何らかの奨学金を受給している者の割合とは、日本学生支援機構の給付奨学金、同貸与奨学金、日本学生支援機構以外の給付奨学金、同貸与奨学金のうち、１つ以上を受給したと回答した者の割合である※。

※日本学生支援機構の給付奨学金及び貸与奨学金の受給者の割合は、令和6年度支援実績ベースでは、41.8%となっている。

[単位:%]

	令和2年度	令和4年度	令和6年度
公　立	46.9	51.9 (5.0)	47.0 (▲4.9)
私　立	57.0	60.9 (3.9)	55.5 (▲5.4)
平　均	56.6	60.6 (4.0)	55.2 (▲5.4)

(参考)設置者別・奨学金の種類別学生数の割合

[単位:%]

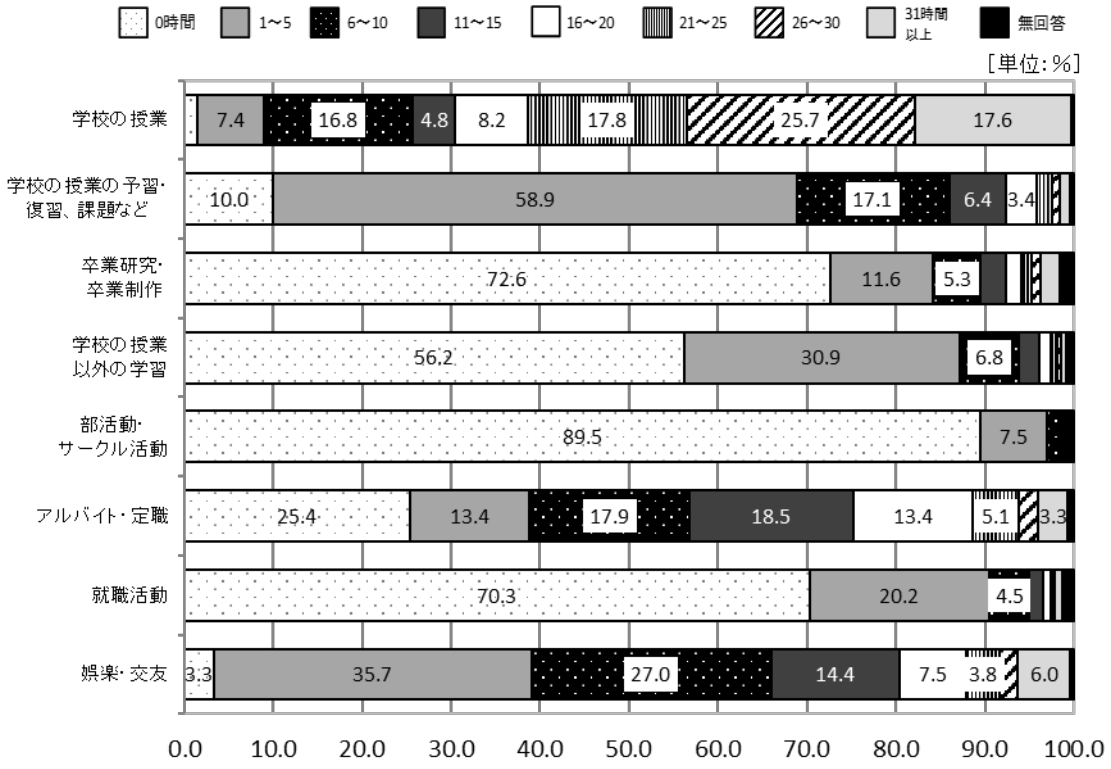
区　分	奨　学　金　の　種　類			
	日本学生支援機構	その他の奨学金	両　方	計
公　立	55.8	30.9	13.3	100.0
私　立	84.0	7.1	8.9	100.0
平　均	83.2	7.8	9.0	100.0

7. 週間平均生活時間【8表】

週間平均生活時間は、授業期間中の典型的な 1 週間（7 日間）の生活時間について回答したものである。「学校の授業」及び「娯楽・交友」について、それぞれ週 1 時間以上費やしていると回答した者の割合が 9 割を超えている。また、「学校の授業の予習・復習、課題など」も概ね 9 割となっている。

※「学校の授業」には、オンライン授業やオンデマンド型授業の視聴時間も含む。

※「学校の授業以外の学習」には、語学学校、通信講座や独学での学習などが該当する。



［単位：%］

区　　分	0時間	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31時間以上	無回答	計
学校の授業	1.5	7.4	16.8	4.8	8.2	17.8	25.7	17.6	0.3	100.0
学校の授業の予習・復習、課題など	10.0	58.9	17.1	6.4	3.4	1.8	0.9	1.2	0.4	100.0
卒業研究・卒業制作	72.6	11.6	5.3	2.9	1.7	1.2	1.0	2.2	1.5	100.0
学校の授業以外の学習	56.2	30.9	6.8	2.3	1.2	0.7	0.4	0.7	0.8	100.0
部活動・サークル活動	89.5	7.5	1.3	0.3	0.2	0.1	－	0.1	1.0	100.0
アルバイト・定職	25.4	13.4	17.9	18.5	13.4	5.1	2.2	3.3	0.8	100.0
就職活動	70.3	20.2	4.5	1.5	0.8	0.2	0.3	0.8	1.3	100.0
娯楽・交友	3.3	35.7	27.0	14.4	7.5	3.8	1.9	6.0	0.4	100.0

（参考）令和4年度調査　［単位：%］

区　　分	0時間	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31時間以上	無回答	計
学校の授業	1.7	8.6	25.8	4.3	7.8	15.2	20.4	15.9	0.2	100.0
学校の授業の予習・復習、課題など	9.7	60.6	16.6	6.0	2.8	1.8	0.8	1.5	0.4	100.0
卒業研究・卒業制作	74.1	10.9	4.5	2.7	1.7	1.0	0.7	2.6	1.8	100.0
学校の授業以外の学習	58.6	30.1	5.7	2.2	0.9	0.8	0.4	0.5	0.9	100.0
部活動・サークル活動	92.2	5.3	0.8	0.3	0.1	0.1	0.0	0.1	1.1	100.0
アルバイト・定職	32.8	15.2	17.1	13.1	11.6	4.5	1.9	3.1	0.7	100.0
就職活動	73.0	18.4	3.5	1.2	0.8	0.3	0.2	1.1	1.5	100.0
娯楽・交友	3.7	39.7	27.1	12.2	6.5	3.5	1.8	4.7	0.8	100.0